

「地域のつながりで守る未来」

小田原市立酒匂中学校

三年 稲垣 結乃

私は生まれた時からこの地域に住んでいます。近所の人達は皆優しい人で、小さい頃から見守ってくれています。「おはよう」「いってらっしゃい」「ただいま」外に出た時に会えば必ずあいさつをします。

特に祖父母と同じくらいの年の人との関わりの大切さを実感しています。

私が小学校に入学した時、卒業した時、また中学校に入学した時、その節目には「おめでとう」と声をかけてもらい、私の成長を見てくれているようです。

私が成長するという事は、周りの大人の人達は歳をとることなので、見守ってもらっただけでなく、高齢の人の家や一人暮らしの

方の家など、気にかけることも必要だと思います。

実際に、しばらく見かけないけど元気かな？

入院とかしてないかな？と気になって家庭で話したりしています。

このように少しの変化に気付くことができれば、家の中で転倒してしまっていた、寝込んでしまっていた、など大事に至る前に対応できることがあるかもしれません。

それでは、どうしたら犯罪や非行を減らすことができるのでしょうか？

私は「地域の関わり」が大きな鍵になると思います。

地域には、同じ町に住む大人たちや、学校以外の友達との出会いがあります。そこで温かい言葉をかけられたり、自分を認めてもらえたりすることは、大きな安心につながります。

たとえば、登下校のときに地域の人から、「おはよう」「気をつけてね」と声をかけて

もらえると、心が少し明るくなります。誰かが自分のことを気にかけてくれる、と感じると悪いことをしようという気持ちは起きにくいはずです。逆に、誰にも見られていない、誰も自分を知らないと思うと、ちょっとしたいたずらや万引きに手を出してしまうかもしれません。地域のつながりは、そうした「見守りの目」になります。

もちろん、地域とのつながりだけで犯罪や非行をすべてなくすことはできません。家庭の問題やお金の問題など、もっと深い原因がある場合もあります。しかし、それでも

「地域で見守る」

「地域で声をかける」

という小さな取り組みが、私達子どもを守る大きな壁になるのは間違いありません。地域の人との関わりがあれば、私自身の行動も見られているという意識を持つので、犯罪を犯さないことは当然のことで、非行に走ったり悪い人たちと関わらないという気持ち芽生

えしてゐるのではないかと思ひます。